

第八十一回なかがわ短歌会

令和四年七月二日（土）
於・富田地区会館第二集会室

・起きがけにふらりと眩暈襲い来ぬ八十路に入りたるわれのありさま

高柳 仁子

・兄貴より届きし新茶甘かりし老いたる今も気遣いなほも

高野 正義

・梅雨近く田に水入り夜毎鳴くデロデロガツガ今宵ララバイ

山田 依子

・梅雨の間に色とりどりのアジサイを探し歩いて心安らぐ

鈴木 清美

・伸びる伸びる長芋のつるは支柱をこえ空を掴むと風に揺れいる

岩室 妙子

・孫生まれ息子使いし鯉のぼりまたの出番に喜び泳ぐ

白草 大三

・孫たちと植えし紫陽花成長しいま公園のスターとなりし

伊藤 君和



第八十二回なかがわ短歌会

令和四年九月三日（土）
於・富田地区会館第二集会室

・打ち水し網戸越しに待つ涼風よクーラー我慢の六月酷暑

高野 正義

・送られし孫の動画を見るたびに心はなごみ微笑み浮かぶ

白草 大三

・梅雨じめり花ひらきゆく凌霄花蕾のままに落ちし花あり

高柳 仁子

・長野駅に娘と落ち合ひ善光寺真夏日となり仏も暑かろ

岩室 妙子

・引き出しにアベノマスクは鎮座しぬ使うことなく凶弾思ふ

山田 依子

・真夜中にポタリポタリと水の音柱時計の振り子のごとし

伊藤 君和

・緑さす朝ぼらけなる山々がおぼろに霞む御岳の朝

鈴木清美

